

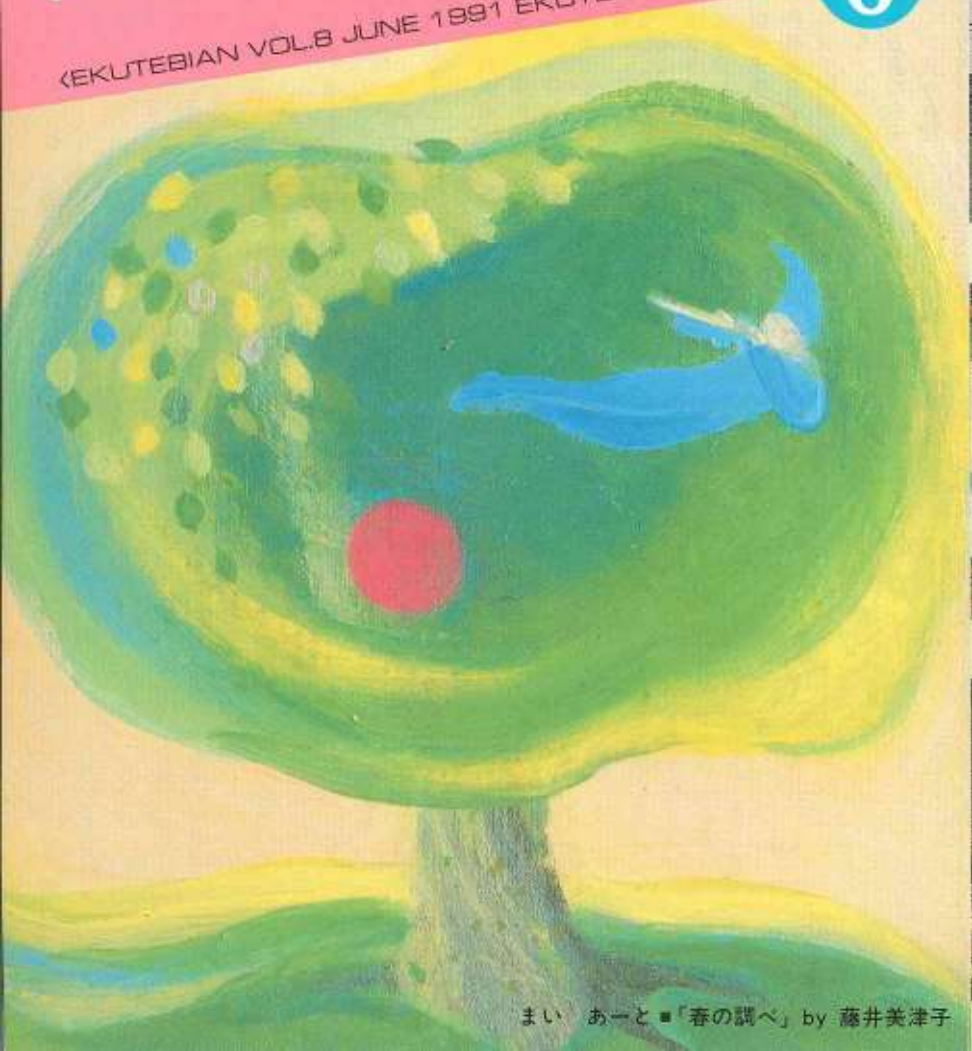
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

6

〈EKUTEBIAN VOL.8 JUNE 1991 EKUTEBIAN〉



まい あーと ■「春の調べ」 by 藤井美津子

諏訪神社の境内にある練成館で鍛える立川相撲。中村会長の筆になる「買実剛健」の精神が土俵に漲っている。



玄関や書斎に絵を飾るひとは多いが、「書」を掛けるひとはむしろ少数派に属するのであろう。
しかし「書のある空間」からは東洋的な静かな息遣いが側々とし

間空るあの「書」

至誠ホームの「勇者ハ福ノ首」メ。若村素竹氏の筆になる。



流泉寺の本堂正面にあるこの書は寺の風格をたたくている。



農業試験場の所長室に「和風清穆」が。武者小路実篤の筆



て伝わってくる。芸術として鑑賞する場合もあるが、暮しの中の活動目標を直に示す「掛書派」もあり、合理化一点張りの昨今、墨跡あざやかな空間を訪ねてみよう。

国立音楽大学の学長室には中国から贈られた記念の書が。



「楽道記念」。今年90周年を迎えた市立八小校長室にて。



当編集工房にも三田鶴吉氏筆になる書「頭叩いて良き調…」が掛けてある



立川警察署にはビーンと張った空気の中に「誠実・勤和・奉仕」の文字が光る

立川消防署に代々伝わるこの書から継続の強さを学ぶ。



今、立川の風は緑いろ

田畑、雑木林、生け垣……。緑の中に人々の暮らしがあったかつての立川の街。

今、近代的な都市へとエネルギーがシユに発展する中で、緑の保護や緑化への努力もまた、たゆみなく続けられている。

自然と共に在る、うるおい豊かな街をめざして。



市立五小の生垣は地域の貴重な緑

緑川通りの「花のじゅうたん」

「緑化まつり」での花鉢の無料配布

諏訪の森の木々、五日市街道の鬱蒼木、公園、家々の庭。今、街は青葉で匂い立つようだ。かつてほとんど緑のなかった駅周辺にも樹木や草花が植えられて、街の景色が優しくなってきた。

今、市では潤いのある緑豊かな街づくりをめざして多彩な緑化運動を進めている。たとえば……

◆「生垣は街の小さな自然です！」最近、街の公共施設の塀が次々と生垣に生まれ変わっている。二小、三小、六小など近くの学校にきれいに生垣がめぐらされたのにお気づきの方も多し。ブロック塀などとは違い生垣の続く道はなぜか懐かしい。今の子どもたちにとって心に残る景色ではないだろうか。一般の人が生垣を作る時は市が費用を補助しているが、それにつけてもこのキャッチフレーズ、意気込みを感じるではありませんか。

◆フラワーロード事業

この春、無数のチューリップが緑川通りの並木の根方を飾った。中央緑地帯の花々とあわせ目を楽しませてくれたが、このほか東西道路の四季折々の花、秋、旧米軍基地の南北道路際に咲いていたコスモスの群れなどもその一環。思わぬ所に花が咲くのも嬉しい。

◆緑化まつり

今年も4月28・29日の両日、昭和記念公園で開催された。梅やリンドゴの苗木などの無料配布が人気を集めていたが市民の手に託された緑、ぜひ根づいてほしいものだ。

ことわざ問答

漢字一字挿入せよ

▼えせ者の笑いは
▼青田と赤い
誉められぬは

6月1日土 2日日
「パッカリ市」

会場 立川市臨時北口
駐車場物広場
時間 1日 正午～PM6:00
2日 AM10:00～PM5:00
詳しくは ☎(23)21119408
小町さんまで

もほとんどなくなり、重ねて水質の悪化は、川原特有の貴重な植物の生態系をも変えてしまった。しかしこうした中でも、私たちの目を引く小低木や可憐な花を咲かせる野草たちも決して少ないわけではない。最近この場所を適地として自生繁殖しつつあるものもあり、小さな自然の回復を知ることができ、河川敷植物観察のポイント

は、堤防と周辺の草地、そして水辺やところどころに見られる湿地などである。一面におびる萩の中はどの草も入る余地がなく、心配なのは萩がその領域を広げて他の植物が侵されていくことである。さて六月、この頃の多摩川ではいろんな花に出合うが、純白清楚で天然の香り豊かなテリハノイバラや普通のノイバラが咲く。また深赤色のあざやかな光のあるナワシロイチゴも時折見られ思わず口にしたくなる。六月の苗代の頃に実が熟すことでその名がある。草地では黄色い花の群落に出合う。ミヤコグサと言って葉のつけねが



多摩川の川原に群れ咲く可憐なミヤコグサ

ら細長い柄を出し、先端に蝶形の花が伸長く二個ずつ咲く姿はむつまじく美しい。カワラサイコやコマツナギ、メドハギ、ヤハズソウ……初夏を色どる花はつきない。

(鈴木 功)

真如苑だより

五月晴れというのは梅雨の晴れ間を指していたそうす。多分「旧暦」の話でしょう。今年の梅雨模様はどんなでしょう。この日が五月晴れであればいいのですが、どうぞ真如苑へおこしくください。

日時 6月14日(金)
午後2時～4時

ひびく風景
おとせま田草

平成三年六月一日発行
発行所 えくてびあん編集工房
東京都立川市富士見町2-20-15
パルクビル川口5F 04-5750-1180
電話 04-5750-0882
FAX 04-5750-1297

編集人 立井啓介
発行人 沖野嘉男
印刷所 株式会社 大廣社

最初は風景画を描かされていたそうですが、結婚をされ、家に入ることが多くなつてからは絵も心象画になつてきたとか。今は、シャガール展を見た影響もあり、人間の肉体的なもの、藤井さんは心模様とおっしゃっているが、心の中心を自由に表現していきたい。

「春の調べ」は心の一番はつとする部分の絵。木の心になつて感謝を表現されたそうす。ご主人も絵を描かれています。次回はチャリティー展が国立の「悠」で十一月二十五日～十二月三日にあるそうす。

立川クイズ

近頃、立川に公園や緑の空間が増えていきます。立川駅北口の「いこいの場」や「ポケットパーク」など。噴水を眺めたり、木陰の散歩を楽しんだり、「緑」や「広場」は子どもにとってもおとなにとっても何よりのリフレッシュ剤です。ところで、この四月に開園となつた「若葉公園」ですが、児童公園

としては市内で二番目の広さ。では、この街で一番広い児童公園は、次のどこでしょう。

①高砂公園②砂川公園③柴崎公園
〔先月号の答〕 全国二位
中央線立川～東中野間24・7km
という直線区間の長さ(地図上では北海道室蘭本線白老～沼ノ端間28・7kmに次いで二番目。明治時代甲武鉄道を敷く際に技師が机上で一気に直線設計はありませんか。)

御本尊、真如宝物をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民(成人)に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパクト」(本誌)を手渡ししてくれた人へ。

表紙は語る

まい あーと★「春の調べ」
by 藤井美津子

新緑深く、風も爽やかな季節となつてまいりました。

さて、今月、表紙を飾ってくださったのは府中市の藤井美津子さん。藤井さんは小さい頃から絵を描くのが好き。東京の多摩湖のほとりて自然に囲まれて育ちました。「人も自然の一部。自然が好き。自然は感動や絵を描きたいという気持ちを育ててくれました。そして、自然に助けられました。」と語る藤井さん。

芝川町(静岡県富士市)で「笹掘り物語」

市の地域文化振興財団が「笹掘り物語」を主催。自分たちの手で笹を掘る楽しみを味わせてくれた。芝川町は笹産地として全国にも名高い。また芝川町と立川市は「パッカリ市」などで交流を深めてきた。

4月21日は初夏のような陽気。立川人50名が貸切バスで一路、芝川町へ。うっそうとした竹藪に笹を見つけ、丹念に掘り出す喜びのなか笹づくしをこ馳走になつたというご満悦の日だった。

本誌は創刊以来、刷りあがると幾人かのジャーナリストに読んで頂いてきた。新聞社のデスクであったり、放送局のディレクターであったり。なるべく多くの方のアドバイスを訊くように努めてきたので、云いづらいいことをズバリ忠告してくれる。しかし、一度印刷にかかった記事の訂正は不可能に近い。「訂正記事」は、編集者の自己満足になつてしまふ、あるいは弁解にしか過ぎない、腹水盆に還らずに絵に描いたようなものだから、貴重なアドバイスを慚愧の念で胸に鎮めておくはかばかしい場合がほとんど。4月号の「カルチャー・トレイン」で考古学の垣野半十郎さんの偉業が伝えられ、半十郎さんが親文人が着用していたと考証した衣服をまもつて撮つた写真を載せた。その写真説明に「西多摩の地、草花丘陵の南嶺秋川市草花に生れた」と、これだけの説明では、半十郎さんが親文人の研究に没頭して遂にご自身が同時代の衣服をまもつて写真機の前になつた心意気が伝わらない。このことを指摘くださった有識の方がおられ、立派な風貌の在りし日の半十郎さんの肖像写真まで添えてくださった。編集者の煮え切らない判断のままに過ぎましたが、ここに改めてご指摘の御礼と半十郎さんの霊に深くお詫び申しあげます。▼たちかわにこの人ありて えくてびあん

RETAIL BANK
人と人のネットワーク

リテールトップバンクをめざして、450を超える店舗網のもと、皆さまの暮らしやビジネスのお役に立ちまいります。

協和埼玉銀行

陽光のなか「よもぎ祭り」が

自然食品を使った料理研究家・浮津宏子さん(西砂町5丁目)が、パーティ形式で「よもぎ祭り」をよもぎ尽くしの一日だった。

催し、同好の士30人が集い手造り料理を堪能した。4月28日、自然食品の店「たなかや」(柏町4丁目)にて。浮津さんご自身で、野にヨモギを摘みにかけて、料理教室の生徒さんらと一緒に醍醐味を披露よもぎ豆腐、よもぎ風味カツ、よもぎパイ、よもぎめし等が並ぶ。お茶までが「よもぎ茶」という、よもぎ尽くしの一日だった。

東風

近代日本の夜明、維新後間もない明治8年、三菱会社社長岩崎弥太郎は「三菱商船学校」を設立。以来、百余年、海運国日本を支えた海の男たち12000人が巣立っていった。隅田川と多くの水路。水の都。ここはそんな町である。



明治丸（国指定重要文化財）三本マストの優雅な姿を東京商船大学の一隅に見せている明治丸は、帆船汽船としてわが国に現存する最古のもの。



深川名物あんこ王。そのおいしさからわざわざ遠くから、買いに来る人も。さっぱりした甘さでおいしいよ。



深川江戸資料館。地下一指から地上二階、三層にわたる高い吹き抜け大空間に再現される江戸時代の深川。



立川発 カルチャートレイン

半日ほどの「小さな旅」へ出てみませんか。そこには思いがけなく自然が息づいていたり。懐かしい「この人」に会えたり。



- 地下鉄東西線・門前仲町駅下車 徒歩10分
- JR京葉線中島駅徒歩10分
- MEMO:詳しくお知りになりたい方は 03-3641-1171へ

深川の岩崎彌太郎さん